

実践、2つの国際セッション：1. What Are Important Issues in Stepfamily Research?: Perspectives on Social and Cultural Contexts, 2. Attitudes of Female Students toward Supporting Elderly Parents in Major Cities in Asia, そして最終日には公開シンポジウム「少子高齢化と日本型福祉レジーム」が開催された。

テーマセッション1の「日本国内における結婚と家族の地域研究」においては、「九州地域における人口性比と人口移動」(工藤豪 埼玉学園大学)、「若年女性の人口移動と家族形成—官庁統計とJGSS-2012データのリンケージによる分析」(佐々木尚之 大阪商業大学)と題した国内人口移動に関する報告もあった。地域の人口減少が最近、大きな政策的課題として取り上げられていることから、家族社会学会においても若い女性の移動動向や、プッシュ・プル要因といったテーマが注目を集めているようである。

Step Familyに関する国際セッションではアメリカから研究者の他に再婚した家族1人1人の心理的ケアを担う臨床医も報告を行い、アメリカのこの分野における関心の高さ、研究と実践のリンケージの緊密さ、子どもの心理面の健康を最も優先する姿勢を示しているように感じられた。

(千年よしみ 記)

第10回社会保障国際論壇（中国・北京）

第10回社会保障国際論壇（The 10th International Conference in Social Security）が、中国人民大学が開催校となって、9月13日から14日にかけて中国・北京市で開催された。テーマは「現在の社会保障のチャンスと挑戦」であった。この論壇（フォーラム）は、2005年に鄭功成教授（中国人民大学）の発案で日本社会政策学会国際委員会、韓国中央大学などの協力により始まり、以後、日本、中国、韓国の研究者が毎年持ち回りでを行っている。今回は基調講演のほか、テーマ別セッションとして「医療保障」、「高齢者年金」、「介護」、「社会福祉」、「公的扶助」、「国際高齢者年金」、「若手セッション」などで研究発表や議論が行われた。これらのセッションでは、医療、年金、介護といった人口高齢化に関する研究報告の他、公的扶助（貧困対策）、自然災害への対応など多岐にわたるテーマで報告が行われた。さらに、欧米からの参加者も意識した「国際高齢者年金」セッションも設置された。参加者は約300名であり、日本、中国、韓国のほか、欧米諸国、国際機関（ILO、世界銀行）からの参加もあった。当研究所からは3名が参加し、以下の報告を行った。

林玲子（国際関係部長）「東アジアの健康寿命：日中韓の比較分析」（高齢者年金分科会）

金子能宏（政策研究連携担当参与）“Life Security Function of the Public Pension Insurance and Supplementary Role of the Corporate Pension Scheme - in the case of Japan”（国際高齢者年金分科会）

小島克久（国際関係部第二室長）「韓国・台湾の介護制度構築の現状と課題—日本の経験との比較—」（介護に関する特別分科会）

なお、次回の「社会保障国際論壇」は2015年9月に韓国・ソウルで開催される予定である。

(小島克久 記)